令和３年２月１日実施

令和２年度　大阪府立枚方高等学校第３回学校運営協議会

１学校長挨拶

今年度はコロナ禍による緊急事態宣言下で新学期を迎え、分散登校を経て、６月中旬にようやく一学期をスタートさせることができた。しかし様々な場面で教育活動の制限を余儀なくされ、いろいろ大変な一年であった。ただ、その中で生徒たちがこちらの期待によく応えてくれて、本日に至るまで休校は一度もない。３年生は無事予定を終了し、後は卒業式を残すのみである。１、２年生も残り少なくなったが、これまで通り気を引き締めて頑張らせていきたい。

今年度の枚方高校は、SDG s に力を入れ、様々な環境保全の活動にも取り組んだ。それらの活動をふまえ、PTA でエコバッグを作成したので、活用してほしい。

令和３年度は、府下で高校１年生にあたる生徒数が大幅に少なくなる。本校の定員も普通科で１クラス減となる。また、中学校３年生による枚方高校の希望状況は、現時点で普通科３５４（第二希望２９）　国際文化科５５（第二希望７１）となっている。国際文化科について言うと、地域全体を見渡しても、英語を勉強したいという生徒は少なくなっている。他の部分での頑張りを見せていきたい。

２事務局より

司会　田原教頭

（１）「令和２年度学校経営計画」（評価案）及び「学校教育自己診断」、「授業アンケート」の集計結果について

①「令和２年度学校経営計画」（評価案）について（学校長）

毎年の経営計画に基づいて、授業をはじめ様々な教育活動がある。その評価が「学校教育自己診断」と「授業アンケート」に反映されている。ここ数年、どちらも非常に高評価を得ている。

「授業アンケート」で言うと、評価平均値は今年度も上昇しており、益々高評価を得ている。先生方が頑張っていることはもちろんであるが、生徒たちもよくついてきている。

「学校教育自己診断」でも、生徒のアンケートではたいへんな高評価を得ることができた。、ほとんどの項目で A 評価が増えており、こちらが重点的に取り組んだ課題（授業全般、国際交流、総合的な探究の時間など）についても正当に評価されていると思う。「令和２年度学校経営計画」（評価案）については、これらの数値に基づいて評価を定めた。

②「学校教育自己診断」の集計結果について（担当首席）

例年通り、「学校教育自己診断」アンケートを生徒、保護者、教員を対象としてそれぞれ実施した。質問項目は、経年変化を分析するため、基本的には前年度のものを踏襲しているが、「学校経営計画」の目標に合わせ、変更を加えたり新たに設定する場合もある。分析結果の詳細については、３月初旬ごろに HP で掲載する予定である。

（２）今年度の進路状況について（進路指導主事）

今年の特徴として、できるだけリスクを避け、早期に進路を決めたいという意識は強いと思われる。年内での決定率は上昇（総合選抜型推薦[昨年までの AO 入試]、指定校推薦が増えた）している。また、学校推薦型選抜[昨年までの公募制推薦入試]・一般選抜ともに受験回数は減少し、「大学入学共通テスト」の受験生は増えた。共通テストをうまく活用し、受験回数を減らす生徒が目立っている。

１・２年生でいうと、両学年とも模擬試験受験者が増えている。「総合的な探究の時間」や HR でも様々な進路学習を実施している。入試制度が大きく変わる中で、進路希望や科目選択がますます重要になってきているし、生徒の関心も高まっている。

ただ、残念なことだが、今年度は、遠足での大学訪問、夏休みのオープンキャンパスが実施できなかった。大学も多様化している中で、実際に現地を訪れて自分で確かめる機会は重要。早く従来のような形に戻ってほしい。

（３）台湾の学校とのオンライン交流について（文化国際部長）

国際文化学科を開設するにあたって、海外の学校等とのオンライン交流が必須事項となる予定。現在は、台湾新北市の丹鳳高級中学校（日本の高校に相当）と話を進めている。内容としては、まず、ヴィデオレター交流を行う。近々こちらで撮影したものを送る予定である。

今から、作成したものを視聴していただく。内容は以下の通りで、時間は５分程度。

観光都市としての大阪（日本語・英語）

学校でのコロナ対策（日本語・英語）

（４）「令和３年度学校経営計画」（案）について

校長　承認事項となりますので、審議をお願いします。まず、これまでの報告をもとに質疑応答をお願いします。そのうえで、「令和３年度学校経営計画」（案）の説明をさせていただきます。

司会　事務局田原教頭から堅田委員へ

質疑応答

司会　では、まず「令和２年度学校経営計画」（評価案）をはじめ、事務局から報告された諸案件につきましての質疑応答を行います。

委員　読書指導についての評価がずっと低いが、どうなのか。本を読まない、図書室を利用しないという生徒は年々増加しているが、何か対策はあるのか。今はコミュニケーション力も問われている時代。本を読む習慣を身に着けさせたいと思うのだが。

事務局　図書室の利用は確かに少ない。理由の一つには予算の問題もある。年間の予算額が８万５千円しかないので、生徒たちが本当に読みたい本は十分に手に入らない。残念ながらこちらの計画通りには本を買えない現状もある。図書館利用者は自習に来る生徒が多い。図書室には新聞もあるが、新聞を読む生徒もいない。

委員　活字離れが進んでいるが、Kindle など電子書籍を活用している生徒もいる。

委員　業務改善が喫緊の課題である。教員も全員タブレットを持つ時代になった。これからは新しいことが重なる。仕事は増える一方なので、何かを削らなければいけない。例えば、会議を少なくし、メール等で連絡を取るなど。各校でどのような工夫を行っているのか聞かせてほしい。

事務局　先生方の勤務について言えば、現在のところ、残業超過等で問題になることはない。ただ、今ご指摘があったとおり、様々な業務が新たに想定されているので、今後についてはたいへん危惧している。

委員　中学校ではすでにタブレットが導入されており、授業等での活用も始まっている。枚方市内の中学校は、各校から ICT 機器の活用に秀でた者を募り、プロジェクトチームを形成して、運用等の研究を行っている。校内でも頻繁に研修を実施しており、先進的な取り組みを行っている。

事務局　高校での導入は遅れている。府教委の計画によれば２０２１年度の二学期に間に合うかどうかというところ。

委員　タブレットで調べ物をするのは当たり前になった。

委員　小学校でも１年生から持っている。家庭に持ち帰り、自宅での学習にも活用している。例えば、コロナ禍の中で音楽の授業には制限があるが、家でリコーダーを吹いて、動画を撮って提出するといった取り組みを行った。一方で、書く作業がおろそかになっている。板書をノートに書かず、カメラで撮影している者もいる。どうバランスをとっていくかが課題である。

委員　子供たちはすぐに慣れるので、タブレットを使いこなすのは先生以上に上手である。すぐに必要な情報を導き出すことができる。一方で、じっくりと時間をかけて読むことの大切さを痛感する。読書が大事であることは間違いない。したがって学校では読書の啓発をしている。

　並行読書（教科書の教材などに関連させて同じ作家の本を読んだり、同じテーマの本を読んだりすること）が大切である。同じ次元の本を読むことで世界が広がっていく。高校

の、本に関する予算が少ないので驚いた。

委員　iPad の課題は答えが用意されているので、保護者としては宿題を教えるときに助かる。

委員　「情報」の授業ではどのようなことを実施しているのか。

事務局　基本的なソフトの使用方法について、情報リテラシーについて、データの活用法とプレゼン（発表）などで構成しています。

司会　この一年、また学校と保護者との間で連携を密にして頑張ってほしい。コロナ禍で先生方も大変だが、忙しい中でも、対生徒、対保護者、そして先生方同士のしっかりとしたコミュニケーションを望んでおられると思う。以上で質疑応答を終了します。

続いて、「令和３年度学校経営計画」（案）について承認を行います。

事務局より「令和３年学校経営計画」（案）について説明（学校長）

基本的に方向性は変えていない。今年度の取り組みのうえにいくつかの重点ポイントを追加した。

〈中期的目標〉

学校教育自己診断の結果をふまえ、以下の項目に着目して設定した。

・コミュニケーション力やプレゼンテーション力のさらなる育成。

・SDGｓに関する学びなど、世界規模で考え、調べ、行動、発信する力のさらなる育成。

・幅広い生徒たちが国際文化科で学べるように工夫すること。

・教育活動のより一層の充実を目指し、教員組織体制の強化・外部との連携を積極的に行うこと。

〈次年度の重点目標〉

中期的目標と今年度の結果（学校教育自己診断の肯定率等）をふまえて、目標とすべき数値設定を行った。

司会　承認事項なので質問を受け付けます。

委員　質問ではないが、観点別評価について先行している立場で意見を述べておきたい。中学校は５観点ですでに行っている。評価の基準が変わると、授業が変わる。実際、観点に合わせて大きく変わった。テストも変わる。座学・実技など様々な授業があるが、公平公正に評価するにはどうすればよいか、時間をかけて十分に準備をしてもらいたい。

司会　ありがとうございました。特にご異議はないようなので、「令和３年度学校経営計画」（案）は承認されました。

司会交代
　堅田委員より事務局田原教頭へ

閉会の挨拶（学校長）

　新入試（大学入学共通テスト）が始まり、コロナ禍があり、いろいろなことがあって大変な一年だったが、なんとか多くの方々に助けられてここまできた。本校に様々なかたちで関わってくださった方々に深く感謝を申し述べたい。

　大きな変革の中で、学校の在り方が問われている。委員の皆様には、これからも本校の在り方についていろいろとご指摘をいただきたい。本日はお忙しい中ありがとうございました。